

こんにちは。嘱託員の村上です。今回は現在行っている館内展示「あおもり遊覧2」から野木和公園に関する話題をお届けします。

さて、「あおもり遊覧2」では合浦公園と野木和公園にある碑・像について、建立年や建立者などを調べ、パネル展示の中でご紹介しています。野木和公園には「五訓之森」、「護郷碑」という2つの碑と「忠烈戦役軍馬之像」という石像があるのですが、この中から「五訓之森」の碑をご紹介しましょう。



五訓之森

「五訓之森」の碑は帝国在郷軍人会油川分会が建立し、昭和56年（1981）に油川親交会によって改建されたものですが、もともとの建立年は刻まれていません。この碑はいつ、何のために建てられたのでしょうか。

建立年を知る手がかりとなりそうなのが、碑に刻まれた「勅諭下賜五十周年記念」という文字です。勅諭とは明治天皇が明治15年（1882）に下賜した「陸海軍軍人に賜はりたる勅諭（軍人勅諭）」のことで、下賜から50年となった昭和7年（1932）には全国各地で記念式典が行われました。このことから、碑が建てられたのは昭和7年頃と考えられます。

そこで、昭和7年の新聞を読んでもみると、県内各地で「五訓の森」と呼ばれるものが整備されていることがわかりました。「五訓の森」とは軍人勅諭に挙げられた忠節・礼儀・武勇・信義・質素という5つの徳目に合わせて5種類の樹木を植樹するもので、同時に「五訓の森」の文字や軍人勅諭の文章を刻んだ記念碑を建立することもありました。

例えば、弘前市では第八師団が笹森山に忠節・礼儀・武勇・信義・質素を表す松・梅・桜・杉・ヒバを植樹して記念碑を建立しました（『東奥日報』昭和7年6月11日付ほか）。一方、黒石町（現黒石市）では在郷軍人会が黒石神社に桜・糸檜・梅・松・杉を植樹しており（『東奥日報』昭和7年4月21日付）、植樹する樹種には特に決まりはなかったようです。

では、油川地区における「五訓の森」の整備はいつ行われたのでしょうか。昭和7年4月24日付の『東奥日報』によれば、4月21日に開かれた在郷軍人会油川分会の評議員会において「五訓の森」の造成が議題となっています。おそらく、この時話し合われた「五訓の森」造成が実現し、「五訓之森」の碑が建立されたのでしょうか。しかし、具体的にいつ整備したのかという情報は見つけることができませんでした。

ご存じのかたがいらっしゃいましたら、ぜひ、歴史資料室に情報をお寄せください。